

国語 第6学年 卒業するみなさんへ

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。光村図書出版『国語（令和6年度版）』の3月配当を基にした授業案。教材本文・台詞・挿絵は転載していない。

この単元で子どもが最後にできるようになること

詩と説明的な文章で、言葉の使い方と考えの伝え方の違いを確かめる。読んだ内容を今後の学びに関わる問いに結び付け、伝えたいことを選んで短い文章にまとめる。単元の終わりに残すのは、これからの学びへの文章。教材から考えたことと自分の問いを関係付け、参考にした作品名を示す。教材についての感想に加え、どの言葉をどう捉えたかが見える記録にする。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第5学年及び第6学年〕〔知識及び技能〕(1)ク	ク 比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。
〔第5学年及び第6学年〕〔知識及び技能〕(1)ケ	ケ 文章を音読したり朗読したりすること。
〔第5学年及び第6学年〕B書くこと(1)ア	ア 目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。
〔第5学年及び第6学年〕C読むこと(1)オ	オ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。
〔第5学年及び第6学年〕C読むこと(1)カ	カ 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。

単元の目標

比喩や反復などの表現の工夫に気付き、作品に合う読み方で音読できる。読んだ内容を基に今後考えたい問いをまとめ、交流で自分の考えを広げられる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①比喩や反復などの表現の工夫に気付き、作品に合う読み方で音読している。（〔知識及び技能〕(1)ク・〔知識及び技能〕(1)ケ）	①「読むこと」において、読んだ内容を基に今後考えたい問いをまとめ、交流で自分の考えを広げている。（C(1)オ・カ） ②「書くこと」において、これからの学びについて伝えたいことが明確になるよう、読んだことや自分の経験から材料を選んでいる。（B(1)ア）	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

単元の流れ

光村図書出版の年間指導計画による全4時間（書①、読③）。総時数は出典に従い、各時間の活動と本時の選定は本案の提案として組んでいる。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○詩を音読し、反復や比喩のある言葉と自分が感じたことを確かめる。	学習状況を見て支援する。
第2次	2	○説明的な文章を読み、書き手の考えと理由から自分の問いを考える。	知①（語句や内容の整理）
	3 （本時）	○作品から考えたことを伝え合い、今後考えたい問いを明確にする。	思①（発言・学習記録）
第3次	4	○書く材料を選び、これからの学びへの文章にまとめる。	思②（完成した文章）・態①（学習前後の記録）



本時の案

本時の目標：読んだ内容を基に今後考えたい問いをまとめ、交流で自分の考えを広げられる。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 （ 分）	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「読んだ言葉の中で、これからも考えたいと思ったのはどれですか。詩と説明の文章では、どのように伝えられていましたか」 【めあて】詩と説明的な文章で、言葉の使い方と考えの伝え方の違いを確認する。 〈予想される児童の反応〉 ・詩の繰り返しから感じたことと、説明の理由から考えたことは異なる。	本時に考える対象を確認し、既に確かめたことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 （ 分）	○「読んだ言葉の中で、これからも考えたいと思ったのはどれですか。詩と説明の文章では、どのように伝えられていましたか」 読んだ内容から今後考えたい問いを記し、自分の経験と結び付く材料を集める。これからの学びについて伝えたいことを決め、使う材料と使わない材料を分けて理由を書く。互いの問いと選んだ材料を紹介し、考えが広がった点を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・詩の繰り返しから感じたことと、説明の理由から考えたことは異なる。 ・同じ言葉でも作品の中での働きがある。 ・これからの学びで確かめたい問いができた。	作品ごとに印象に残った言葉と、そこからの考えを分けてメモする。詩は響きや反復を音読で、説明的な文章は考えと理由の関係を確かめる。進路や夢の内容を評価しない。 想定する難しさ：卒業の決意だけを書いて教材と結び付かない。詩に説明文と同じ答え方を要求する。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 読んだ内容を基に今後考えたい問いをまとめ、交流で自分の考えを広げている。（問いの記録・文章に使う材料の選択と理由・交流後の記録） ◎思② 伝えたいことが明確になるよう、読んだことや経験から書く材料を選んでいる。（材料の選択と理由）
まとめ （ 分）	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって確かめたことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・これからの学びで確かめたい問いができた。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った実際の言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って紹介や説明の文章を直す。 ◎態①（学習前後の記録と、見直した理由）

板書の構造（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「読んだ言葉の中で、これからも考えたいと思ったのはどれですか。詩と説明の文章では、どのように伝えられていましたか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた実際の言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

つまづきやすい所と手当て

難しさとして、卒業の決意だけを書いて教材と結び付かない。詩に説明文と同じ答え方を要求する。この場合は、作品ごとに印象に残った言葉と、そこからの考えを分けてメモする。詩は響きや反復を音読で、説明的な文章は考えと理由の関係を確かめる。進路や夢の内容を評価しない。おおむね満足できる状況は、読んだ内容を基に今後考えたい問いをまとめ、交流で自分の考えを広げているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

プリントの案

単元の学習メモ

これからの学びへの文章。教材から考えたことと自分の問いを関係付け、参考にした作品名を示す。教科書の文章・図は印刷せず、自分で確かめた箇所の見出しや、自分の言葉で内容を記す欄にする。

交流と見直しの記録

交流前の自分の考え、友達が伝えた言葉、その後の自分の考え、変えた又は残した理由を並べる。友達の考えに合わせることを求めず、判断の理由が分かるようにする。

出典：光村図書出版 年間指導計画。教材名・配当時数・時期・重点項目の出典。年間指導計画例 Excel（6年）「6年」226行目（https://www.mitsumura-tosho.co.jp/download_file/view/1fcac788-a61c-4521-a515-9a40f3413770/368）／文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年告示）。原文は手元の公式表の写しと照合。

（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）／国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語。評価規準の観点と記録の考え方。

（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

